

すばらしき“みえ”

FOR NICE COMMUNICATION

2025.4
245号

■特集／懐かしくて新しい、三重の銭湯

●いま、グループネット／NPO法人 スポーツクラブどんぐり ●みえを歩こう／四日市市 大矢知町南西部



懐かしくて新しい、三重の銭湯

江戸時代に一般大衆に広まったという銭湯は、一般家庭にお風呂が普及して以降、急速にその姿を消しつつあります。

しかし近年では、大きな浴槽に浸かることで得られる精神的充足感・幸福感に加えて、美容や健康効果があることから、その価値が見直されつつあります。また、昭和の面影を残す銭湯の外観や内装などが、若い世代に新鮮に映り、その魅力が再認識されています。

今回は、三重県内で営業を続ける銭湯の中から、6施設をご紹介します。

*銭湯を利用する場合は、湯船に入る前に体の汚れを落とす、タオルをお風呂に入れない、浴場内で洗濯をしない、シャワーをする時には座る、浴場から外に出る際には体をよく拭くなどのマナーを守るようにしましょう。また、体調不良や泥酔した状態での入浴は危険なため、控えるようにしましょう。

*各銭湯の営業日時・入浴時間・料金・受け入れ方法・入浴人数などには違いがあり、状況に応じて休館・閉館する場合があります。事前に必ずご確認ください。

取材・文：中村 真由美・中村 元美・堀口 裕世
撮影：梅川 紀彦・尾之内 孝昭・中村 元美
ただし※印の写真は取材先から提供していただきました

色とりどりのタイルやレトロな内装に心和む

楠温泉

鈴鹿川河口の三角州に位置する楠町

では、かつては漁業が盛んに行われていました。「以前は、漁を終えた漁師たちや近くの紡績工場の従業員たちが汗を洗い流しに来ていたようです」と教えてくれるのは、池田久司さん。昭和8（1933）年の開業以来、地域の人々に親しまれている銭湯「楠温泉」の3代目です。会社員だった池田さんが3代目となったのは、5年前。2代目の森下晃行さんが体調を崩したため、後を受け継ぐことにしたのは、ごく自然

の流れだったと回想します。

池田さんの案内で館内に入った途端、郷愁を覚えました。木札の鍵が付いた下駄箱、天井の洋風ライト、和洋折衷の「組格子の欄間」など、開業当時の姿をほとんど変えていないのです。

90年以上の間、大切に使用されてきたのは、浴場内も同様です。壁や浴槽周囲には、カラフルなタイルが敷き詰められ、明るく可愛らしい印象です。「3分の2は常連客ですが、最近では若いお客さんも増えてきました」と池田さん。中

四日市市楠町

には「鈴鹿サーキット」や伊勢神宮参拝の帰路に立ち寄る人もいると伺いました。



池田 久司さん

浴場内の花柄タイルに彩られた大きな浴槽は3か所に区切られ、37度から44度までの3段階の温度に分けられています。好みや体調によって入る浴槽を選ぶことが可能です。小規模ながら、水風呂やサウナも揃うため、幅広い年代の方が体も心も癒すことができるでしょう。

池田さんからは、県外からタイル好きの人が来館することもあると伺いました。レトロな内装に加えて、花柄や幾何学模様のタイルを眺めながら入浴すれば、疲れも吹き飛ぶことでしょう。

お問い合わせ

「楠温泉」（月曜日定休）

TEL 059-3397-2328

営業時間／15時30分～21時

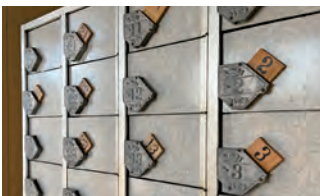
駐車場あり（15台）



「楠温泉」外観



昭和の趣を伝える洋風ライト



木札がアクセントの下駄箱



タイルに彩られた浴槽

バリエーション豊かな湯と、看板おばあちゃん、 すえひろ湯

【津市幸町】



白いタイルの壁と長い浴槽の浴室

広い駐車場がある津市の「すえひろ湯」は、住宅街の中にあります。入り口を入るとソファのあるロビー。ソファの周囲にはカーペットが敷かれ、いろいろなおもちゃやマンガなどが置かれ、アットホームな安らげる空間となっています。男性も女性も、湯上がりや入浴前に話に花を咲かせ、くつろぐ方が多いとか。

脱衣所からお風呂場に入ると、白いタイル張りですっきりとした印象。床は滑りにくい素材でお年寄りにも安心です。真新しい建物ではありませんが清潔で、細やかに手を掛けられているのが感じられます。男女ともに、打たせ湯、寝風呂、超音波電気風呂などがあり、バリエーション豊か。お湯はブラックシリカ入りなので、湯上がりもポカポカでしょう。



米田 幸二さん



母のあき子さんとココちゃん

ご主人の米田幸二さんにお話を聞くと、「創業は昭和27（1952）年です。祖母と伯父がはじめ、その後父が継ぎました。私はずっと電気工事士の仕事をしていたのですが、平成8（1996）年に父が病気で倒れてから店を引き継ぎま

した。今は、母と家内（奈緒美さん）と三人でやっています」とのこと。このお母さんが看板娘ならぬ、看板おばあちゃんとして人気のあき子さん。昭和33（1958）年に19歳で嫁いできて以来、85歳の現在まで、ずっと番台に座ってきまし

た。「今では、おばあちゃんがいなくて、何人ものお客さんが『おばあちゃん、は？』と聞いてくれるほどです」。

あき子さんの相棒を務めるのは、チワワのココちゃん。13歳の「看板犬」です。夕方6時頃から2時間ほど番台に座り、お客さんを出迎えます。あき子さんや



「すえひろ湯」はオレンジ色の外壁が目印



くつろぎの場となるロビー



脱衣所はすっきり



電気風呂、超音波などが並ぶ浴槽

ココちゃんに会うために来てくれるお客さんも少なくないそうです。

壁には演歌歌手の山崎ていじさんのサイン入りのポスターが貼られていて、聞けば、あき子さんがファンで親交があるとのこと。愛犬のココちゃんを隣に、ていじさんのポスターを眺めながら、こやかにお客さんとの会話を楽しむあき子さんです。

「冬は水が冷たいですから、朝9時から湯を沸かしはじめ、3日に一度は薪用の廃材を切らなければならぬなど、銭湯はきつい仕事が多いのですが、おばあ

ちゃんが元気で今も薪を一輪車で運ぶような仕事もしてくれるのでありがたいです」と幸二さん。

昔ながらの銭湯らしい気さくで和やかな雰囲気と、家族3人の細やかな心遣いがある「すえひろ湯」。ほっこりさっぱりできると、常連さんが多いのがうなずける銭湯です。

お問い合わせ

「すえひろ湯」（木曜日定休）
TEL 059-228-0531
営業時間／15時30分～23時30分
駐車場あり（26台）

国分湯

木造からビルに改装後も昔ながらの銭湯スタイル

【津市南中央】



中央に湯船が置かれたスタイル

ビルの壁面に描かれた温泉マークが目印の「国分湯」は、津市のバイパス、県道114号沿いの立ち寄りやすい場所にあります。ご主人の桐生浩伸さんの父、守男さんが昭和35(1960)年に木造平屋建ての銭湯からスタートさせました。屋号は守男さんの故郷、鈴鹿市国分町から名付けたそうです。昭和63(1988)年、マンションの建設で一階部分に銭湯を建て替え、県内ではめずらしいビル銭湯になりました。

その外観から現代的な銭湯を想像して暖簾をくぐると、そこには昔ながらの銭湯美。男女別の入り口から戸を開けると、番台と脱衣所が一体化し

たスタイルです。銭湯定番の「お釜形ドライヤー」(女性用)とアナログスケールの体重計、鏡の提供広告が郷愁をそそります。

浴室も期待を裏切らずに、真ん中にとつしりと湯船が置かれたレトロな光景です。奥には電気風呂、気泡風呂はジェットバスとバブルバスの浴槽で、いろいろと湯浴みを楽しめます。広々としたスペースに、積み上げた湯桶はカラフル。全体の配色のバランスが絶妙で、床の水色のタイルと壁の白タイルがモダンで明るい雰囲気です。暗くなる前には窓から差し込む太陽の光で、さらに爽やかな開放感を得られます。

タイル張りは改装以降、そのままの状態で使い続けていますが、年季の入ったタイルゆえ、強力ジェット洗浄には向いておらず、桐生さんは浴室を丁寧な時間をかけて手洗いしています。「営業が終わってから、ゴシゴシ。一度手を抜いて



桐生 浩伸さん

さぼってしまうと、その汚れはもう落ちませんからね」と、その日のうちに洗流すことを怠らないこそ、これほど清潔感にあふれているのです。

浴槽を磨いた後に、タオルなどの洗濯を終えるまでがその日のノルマ。翌日に脱衣場を掃除し、そしてお客さんを迎えるべく、水を張ってボイラーのスイッチをいれます。平成26(2014)年に、ボイラーの燃料は薪から重油へと変更されました。「昔に比べたら、ずいぶん便利になりましたよ」と淡々と日々の業務をこなす桐生さん。

常連さんとの会話は軽やかです。取材



県道114号沿いにある



ビルの1階が銭湯



レトロ器具の揃う脱衣所



適温でリラックス



カラフルな湯桶

対応中も訪れた人、帰る人、一人ひとりにあいつを欠かさない桐生さん。毎日訪れるご夫婦は、風呂上がりにはアイスクリームを食べるのがお決まりで、高齢の方が湯船で長湯をしていると「そろそろ上がった方がいいよ」と声をかけています。ご近所さんばかりでなく、津へ働きにきている遠方の方が、仕事帰りに寄るパターンも。駐車場はマンション周辺にも借りて対応しています。

はじめて訪れた若い利用者は「三重銭湯めぐりデジタルスタンプラリー」を楽しんでいました。「はじまって一か月も経ってないけど全部まわったって人もい

ましたね」。続けて桐生さんは話します。「今は週休2日にさせてもらいましたが、ここが定休日になると常連さんは別のお風呂(行くみたいです。一度銭湯の良さを知ってしまつと家の風呂には戻れんでしょう)。国分湯も近くの銭湯が定休日になると、いつも以上に賑わいます。津市にある4軒の銭湯には、持ちつ持たれつの関係性ができているようです。

お問い合わせ

「国分湯」(月曜・金曜日定休)
TEL 059-2227-7816
営業時間/16時~22時
駐車場あり(20台)



男湯の暖簾。女湯の入り口は反対側に



ソーラーパネルと煙突



木札の鍵が懐かしい下駄箱



人気のサウナは男女両方にある



女湯の脱衣所は憩いの場に



女湯は夕映えの山の風景

湯に置かれたソファなどはお客さんが運んできてくれたもの。「みんながあちゃんなどと呼んで親切にしてくれます」。壁を飾る大きなタイル絵は、男湯は富士山、女湯はアルプスを思わせる山の夕景。広々とした風景画は開放感があり、

まさに「お風呂屋さん」のイメージ通り。お湯は、ボイラーと屋根の上に大きく広がるソーラーパネルで沸かします。天然鉱石を入れた「ミネラル湯」で、手前の浴槽はぬるめ、中央は熱い湯が沸きだすようになっており、奥は超音波の湯。サウナもあり、男湯は水風呂、女湯は薬湯で整うことができます。脱衣所には、丸い縦型の表示板が付いた体重計や、頭上で回転するお釜形ドライヤー（3分10円 女湯のみ）など、昭和の面影が漂う懐かしい品々も並んでいます。「女湯の脱衣所にあるソファでの井戸端会議が楽しみです。食べ

物の話や健康のことなど、あれこれ話します。しばらく顔を見ないと気にしていたお年寄りが「介護施設のデューサービスでお風呂に入ってる」と聞いて安心したり、お客さんはみんな大きな家族のような気持ちですね。一日の終わり、やんわりとぬるめのお湯に浸かって山の絵を眺め、おかみさんの笑顔に会えば、身も心も癒されます。

お問い合わせ

「春日温泉」(水曜日定休)

TEL 0598-21-0568

営業時間/15時30分~22時30分

駐車場あり(8台)



男湯は富士山のタイル絵

松阪競輪場のすぐそばに立つ「春日温泉」。入り口で出迎えてくれたのは、経営者の吉村きみ子さん。明るい笑顔のやさしいおかみさんです。「創業は、昭和31(1956)年頃と聞いています。私がお嫁にきたときには、主人の父が銭湯を経営していました。22歳で嫁いできてから、83歳の今まで、ずっとこの銭湯で働いてきました」と、半生を振り返ります。「昔は松阪だけでも何十軒も銭湯があつて、組合で連休の日を決めて、皆でバス旅行に行ったりしたもの

です。今ではもう、うちだけになってしまいました。その言葉通り、「春日温泉」は松阪市内で唯一の銭湯となりました。銭湯経営はすることが多く忙しいのですが、家族で助け合って続けてこれたそうです。「主人は昼間は勤めに行き、夜はおじいさんを手伝っていました。今、長男も不動産業の仕事をしています。銭湯を継ぐ気持ちはないのですが、私がこの仕事をしている間だけはと言って手伝ってくれています。でも、私も高齢です、それだけでは手が足りませんから、釜焚きと掃除は手伝いの人に来てもらっています。私は人に恵まれていて、今来てくれている二人も、本当によく働いてくれますし、お客さんにも助けられているんですよ。小柄なきみ子さんを気遣って、入り口の暖簾は、毎日お客さんが掛けてくれます。また、冷蔵庫や女

春日温泉

【松阪市春日町】



吉村 きみ子さん

錦水湯

地域住民に愛され続け100年

【伊勢市岩渕】



創業100周年記念の手ぬぐい

すっきりと清潔感ある浴場

近鉄宇治山田駅から勢田川をわたってすぐ。白い煙がモクモクと立ち上る煙突を目印に進むと赤い屋根の銭湯「錦水湯」があります。創業は大正13（1924）年。昨年、創業100年を迎えました。ご主人の竹林茂さん・尚美さん夫妻は4代目。竹林さんの祖父がはじめました。多い時は市内に45軒ほどあった銭湯もここ数年で廃業が相次ぎ、現在は市内で2軒となりました。現在の建物は平成元（1989）年に建て替えられたもの。清潔で居心地がよい脱衣所では、年季の入った「ぶら下がり健康器」や頭に

かぶって乾かすお釜形ドライヤーが昭和感を漂わせています。すっきりとした白いタイルが美しい浴槽では、銭湯には珍しいペングインの置物が入浴客を見守っています。湯は地下水を汲み上げた井戸水を使用し、湯を沸かす燃料はおがくず、薪、木材チップなど。客からは「お湯が柔らかく、体が芯から暖まる。朝までぐっすり寝られる」と好評です。



尚美さん



竹林 茂さん

季節替わりの薬湯やジェットバス、電気風呂など多彩な湯を楽しめるのも魅力。利用者は1日平均100人。近隣住民を中心に市内から車で訪れる人も多く、土日は観光客が訪れることもあります。スチームサウナと水風呂も備えています。近年のサウナブームで若い客も増えているといいます。

「毎日来てくれる人もいますね」と竹林さん。銭湯を訪れる理由はいろいろあります。家に風呂がない、風呂の準備が大変だから、大きな浴槽で足を伸ばしたい、誰かと話したい。特に一人暮らしの高齢者などは「ここにきてなじみの客と話すのが唯一の楽しみ」だと語る人も多くいます。また「しばらく顔を见ないと心配になる」と尚美さん。常連は毎日顔を合わせる「家族」のような関係性で、客同士で背中を流し合ったり、親子ほどの年齢差のある客同士がお互い気にかけて合うこともあるそうです。近年、高齢者が浴室内で倒れる事故など

がニュースになっています。銭湯でものぼせて意識を失うなど、体調が悪くなる人もいますが、必ずしも周囲の人が助けてくれます。見守り、見守られている安心感があり、また憩いの場としても欠かせない場所となっています。

いさえますが「いくら大変でも、必要としてくれる人がいるからやるわけにはいけない」と語ります。地域の人々が集い、心身を癒す憩いの場を守り続けています。



湯を沸かすボイラー

竹林さんの仕事は午前10時半の釜の焚き付けから始まります。オープン午後2時には一番風呂を楽しみに待つ常連の姿があります。それから深夜0時の営業終了まで夫婦が交替で番台に座ります。清掃などをして一日の仕事を終える頃には午前2時をまわります。「ブラックな仕事ですよ」と苦笑

が「錦水湯」（金曜日定休）
TEL 0596-28-7360
営業時間／14時～24時
駐車場あり（15台）

お問い合わせ

「錦水湯」（金曜日定休）

TEL 0596-28-7360

営業時間／14時～24時

駐車場あり（15台）



勢田川沿いに建つ



暖簾が風にたなびく



現役の「お釜形ドライヤー」。



浴場の隅にたたずむ親子ペンギン



スチームサウナも人気

火の神とともに名張のまちを見守る
県最古の銭湯

新町温泉

〔名張市新町〕



京都式で壁扱いに浴槽を配置

名張川沿いの初瀬街道には伝統的な味わい深い建築物が並んでいます。その本町通りから、ひやわいと呼ばれる狭い路地を抜け、推理作家・江戸川乱歩の生誕地のすぐ近くに、ちよこんと突き出た煙突あり。今では名張市に一軒だけとなった「新町温泉」です。入り口の松の木が、銭湯の佇まいに風情を添えています。

明治6(1873)年の創業で、県最古の銭湯。汲み上げた地下水を薪で焚き続けるのは、4代目の脇本 俊彦さん。高校を卒業してすぐに、体の弱かった父親に代わり、70年間、地域のお湯を守ってきました。「小学校の時にはリヤカーひいて手伝っていましたね。最盛期にはこの辺りで9軒の銭湯があったのを記憶しています」。現在の建物は昭和33(1958)年に建て替えられました。「せっかく新品にしたのに、翌年の伊勢湾台風で被害を受けて、ボイラー設備が浸かりましてな。一年間は商売できませんでした」と当時の苦労を振り返ります。

入り口の重厚な下駄箱も見です。アユを捕えた瞬間の鵜をモチーフにしたアルミ製の下駄箱は、まるで工芸品。正面には名張らしく赤目滝のタイル絵を飾り、上がり框かみどもレンガ色のタイル製。「今ではタイルを探しに隣町まで行かないといけません」と脇本さん。脱衣場は、お釜形ドライヤー(ハンドドライヤーもあり)、マッサージチェア、体重計が並び広々としています。

浴室は京都式で、男女湯を仕切る壁扱いに浴槽が配置されています。入り口そばの浅湯には、タイル絵の鯉が泳いで



鵜をモチーフにした下駄箱

います。ほかに電気風呂、超音波のジェット風呂、薬湯は漢方で日替わり。スチームミストサウナは週に一度(土曜日)稼働しています。洗い場には珍しいタイル製の腰掛けがあり、これは大阪に多かったスタイルのようです。

天井はアーチ型で明るく、天窓のついた大きな四角い湯気抜きで、開放感があります。

燃料となる薪に、かつて木屋町にあった材木屋で出たおがくずや木っ端を利用していましたが、手に入りにくくなったことから30年ほど前は重油でボイラーを沸かしていたこともありまし



松の木と煙突が目印



薪で湯を沸かす脇本 俊彦さん



浅湯に泳ぐ鯉のタイル絵



庭に育つユズの木

用意し、こまめに入れ替えています。「ユズがたくさん採れたときは、正月の初湯にもいれとります」。

「こんばんは」「今日は冷えますなあ」「お先です」「おやすみなさい」とあいさつが心地よく、それに応える「いつもご利用、おおきにありがとう」の声。新町温泉の雰囲気は、番台に座る脇本さん夫婦の人柄そのものです。

お問い合わせ

「新町温泉」(月曜・木曜日定休)
TEL 0595-631-2581
営業時間/16時30分~21時
駐車場あり(7台)

NPO法人 スポーックラブどんぐり

サッカーを中心にスポーツを通じての人材育成をめざす「NPO法人 スポーックラブどんぐり」。運動にも勉強にも励み、子ども自身が自分の将来を考える基礎を作ります。幼児から大人まで約300人が所属する「フットボールクラブ アヴェニードール」を軸に、クラブ専用のグラウンドや送迎バスを持ち、ライセンスを持つコーチ陣が指導し、学童保育まである充実した組織になっています。



理事長 中田 純一さん

お問い合わせ

「NPO法人
スポーックラブどんぐり」
TEL 0595-23-1132

お話を伺ったのは、理事長の中田純一さん。このNPOの創設者であり、一代で起こした商社会社の経営者でもあります。プロ選手として活躍し、現在「奈良クラブ」で監督を務める中田 一三さんは弟。地元の未来を担う人材育成を目標に、熱い想いがあふれます。

——もともとご自身がサッカーをされていたのですか。

中田：私自身は亀山高校で重量挙げの選手でした。弟の一三が中学校でサッカーに出合い、いろいろな面で成長させてもらったのです。その後、四日市中央工業高校に入り、全国高等学校サッカー

選手権大会での優勝を経て、プロへの道が開けました。弟が中高生のころ、私は保護者として応援していました。選手たちを乗せたマイクロバスを運転して試合に行くなどのサポートをしていたのです。強豪校の練習法や考え方をなどを間近に見たわけです。私自身の重量挙げ部の経験も含め、スポーツの指導について学ぶところが多かったですね。

——スポーックラブを作ろうと思われたきっかけは何ですか。

中田：弟がプロ選手になってから、私は事業を始め、結婚して子どもができました。二人の息子たちが小学生になり、地元のサッカーチームに入ったのですが、その指導者の方の考え方に違和感が

あって、退会させたのです。そして、平成18（2006）年に弟と一一緒に「中田一三サッカースクール」を立ち上げました。——それでこのチームが誕生したんですね。

中田：ところが思わぬ逆風が吹き、チームが地元のサッカー協会に属することはいまうまく進みませんでした。そこでNPO法人を立ち上げ、ボランティアとビジネスを融合させる方法をとりました。コーチ陣は全員ライセンスを持った公認コーチとし、組織全体は営利を求めるものではなく私たち理事は無報酬ですが、コーチやスタッフには正当な対価が支払える形を作ろうと考えたのです。

——サッカーの指導だけではなく、勉強にも力を入れていると聞きました。

中田：成績にCがある子は練習に参加できないということにしています。私は「継続できる」ということを第一に考えるのですが、勉強を頑張れない子は、サッカーも継続できない場合が多いです。チームが強くなることや優れた

サッカー選手を育成することだけでなく、このクラブの目的は人材育成です。この子どもが大きく育ち、地元貢献してくれるのが私の夢です。自身の将来像を描く助けになるよう、OBのキャリアを子どもたちに共有するような取り組みも行っています。

——自前のスタジアムや送迎バス、学

童保育など多岐にわたる組織となっていますね。

中田：スタジアムは必要ですし、ほかのことも保護者や関係者のニーズを聞いて

それを



ホームグラウンド「どんぐりパーク」は設備も充実



勉強も頑張るサッカー少年たち※



ライセンスを持つコーチ陣による指導※



食育の一環として農作業の体験も行う※

意識していると、力を貸してくれる方が現れたりして、一つひとつ実現していています。食育にも力を入れていますが、ダンスなどの新しい試みも生まれています。親御さんの負担のほかにも、協賛してくださる企業や一般の方からの寄付もあり、ありがたいことだと思っています。

——地域貢献が認められ、協賛企業は70社に及ぶとのこと。今後さらなる発展が楽しみです。

インタビュー：堀口 裕世

四日市市

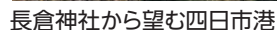
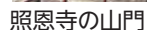
大矢知町南西部

令和2年、この大矢知町字久留倍と字矢内谷に、古代の官衙役所跡を整備した歴史公園「久留倍官衙遺跡公園」(くるべ古代歴史公園)「くるべ古代歴史館」が誕生しました。園内には、格式の高い門「脚門」が復元されるなど、訪問者を古代へと誘います。

今回は、古代から江戸時代にかけて、さまざまな時代の歴史ロマンが詰まった大矢知町南西部を散策します。取材・文：中村 真由美

「忍藩大矢知陣屋跡」

今回の散策の起点は、三岐鉄道三岐線「大矢知」駅です。最初に向かうのは、すぐ近くの大矢知興譲小学校です。実は、同校が建つ場所には、かつて武蔵国忍藩（現在の埼玉県行田市）の陣屋（代官所）が置かれていたのです。江戸時代の大矢知は桑名藩の領地でしたが、文政6（1823）年に藩主の松平忠堯が、忍藩に国替えを命じられたのにもない、同藩の領地になりました。当時の忍藩は桑名藩の10万石に比べて石高が少なく、不足分を補うために、大矢知を含めた72



の村を飛地とびちとしたのです。大矢知に陣屋が置かれると、八風道は、朝明郡各村の年貢米を輸送する幹線となりました。

しょうおんじ
照恩寺から長倉神社へ

陣屋跡を示す案内板と松並木に歴史の重みを感じながら同校を後にすると、長倉神社の鳥居が見えてきました。鳥居の手前で右折し、少し進むと姿を現すのが、**照恩寺**の山門です。寺伝によれば開基は江戸時代。風情ある山門は、桑名城内にあった城門の一つを移築したもので、『**四日市市史**』には「享保6（1721）年銘の鬼瓦があり」と記されています。

今回、ご案内いただいたのは「大矢知まちづくり構想推進委員会」歴史・文化の継承プロジェクト部長の水谷 好伴(よしとも)さんです。お話からは、地域への深い愛情が伝わりました。



■ **行程図** 所要時間／約3時間 ※所要時間は、おおよその目安です。

START

三岐鉄道三岐線「大矢知」駅 約400m → 「忍藩大矢知陣屋跡」 約400m → 照恩寺 約200m → 長倉神社 約350m
約2.2km
「天武天皇迹太」御遥拝所跡 ← 約800m 「久留倍官衙遺跡公園」(「くるべ古代歴史公園」「くるべ古代歴史館」)



館内の様子



出土品の展示風景

「久留倍官衙遺跡公園」で古代の風を感じながら、ゆつくりと散策・見学した後、南へ向けて歩きます。すると10分程度で「壬申じんしんの乱」ゆかりの「天武天皇迹太川御遥拝所跡」に到着しました。「壬申の乱」とは、天智天皇の死後、その皇位継承をめぐつて、天武元(672)年に起こった乱のこと。『日本書紀』には、大海おほみ人皇子(後の天武天皇)が朝明郡の迹太川まのほとりで戦勝を祈願したことが記されています。実は、御遥拝所の候補地は複数存在するのですが、江戸時代から



「天武天皇迹太川御遥拝所跡」

数発見されました。全国でも珍しい東向きの役所の跡が発見されたほか、規模の大きな建物や倉庫群などが整然と並んでいることなども判明。古代の伊勢国朝明郡の郡衙（ぐんが）郡家跡の可能性が高いことなどから、平成18（2006）年に国の史跡に指定されました。

「くるべ古代歴史館」

所の中心的な建物である「正殿（せいだん）庁屋（ちやうや）」の大きさを、現代の材料と工法によって表現したもの。後者は、古代の地方の役所の正面に採用された「八脚門」を復元したものです。進むにつれて、長大な建物の跡（あと）や正倉（せいそう）（米穀の貯蔵施設）を取り囲む濠（ほり）の跡なども示されていて、規模の大きさを実感できました。また、一面には『万葉集』に詠まれた植物が植栽されたエリヤもありました。

同園を訪ねたら、東側に併設された「くるべ古代歴史館」(入館料無料)に立



「大矢知砦」跡



「正殿」(あずま屋)



「八脚門」(復元)



植栽された万葉植物と説明板

園内を散策すると、

の文中元(1372)年に築かれた「大矢知砦」がありました。水谷さんからはい、この砦が北朝方と南朝方の壮絶な戦いの舞台の一つになったことなども教わりました。

古代の人々の瞳にはどんな光景が映っていたのか、想いを巡らすだけで胸躍ります。

散策の終点は再び、三岐鉄道三岐線「大矢知」駅ですが、東へ向けて約15分歩けば、近鉄名古屋線「富田」駅です。都合に合わせて利用するとよいでしょう。さまざまな時代の歴史や文化を感じられる大矢知散策はこれで終了です。

守りたい、いのち 三重県指定希少野生動植物種

絶滅のおそれのある動植物種のうち、特に保護する必要がある種で、
三重県指定希少野生動植物種として指定している野生動植物を紹介します。



ヒメムカゴシダ

シダ植物コバノイシカグマ科

◆ 分布 ◆
東紀州

日本固有種。葉身の長さ70cmほどになる常緑性シダ。中軸に大きな無性芽(むかご)が数個つく。

資料・写真提供：三重県 農林水産部 みどり共生推進課 野生生物班

■ お問い合わせ

三重県 農林水産部 みどり共生推進課 野生生物班

TEL: 059-224-2578 メールアドレス: midori@pref.mie.lg.jp

* 三重県指定希少野生動植物種を県ホームページに準じて紹介しています。

* 県ホームページで他の野生動植物種をご覧になれます。

表紙写真 「春日温泉」(松阪市春日町)

百五銀行のホームページで、「すばらしき"みえ"」のバックナンバーをご覧くださいませ。
<https://www.hyakugo.co.jp/mie/>